常任委員会行政調査報告

総務委員会

（◎長田　淳、○稲垣　衿子、高野　達夫、熊澤　一敏、小川真由美、木村　哲也、安江美代子、玉井　宰、澤田　勝巳）　◎委員長　○副委員長

5月9日(水)　福岡県大野城市
行政改革の取組
統合型行政評価システムとまどかフロア

大野城市では独自の統合型行政評価システム「公共サービスDOCK事業」を構築しました。これは、市民満足度の高い行政サービスの提供及び行政運営を目指し、さまざまな視点から行政施策を多角的に評価・診断するものです。これにより1000近くある施策事業を管理し、行政経営のPDCAサイクルにのせ市民参画を得ることに成功しました。

窓口改善については、市長のトップダウンにより、週末窓口サービス、コールセンター、総合窓口「まどかフロア」が導入され、利便性と対応の効率化が図られ、特に窓口では、縦割りの手続きを一元化しました。

本市としても新たに導入された、自治体経営システムや窓口業務拡充事業の参考として、施策事業評価の精度向上、市民サービス向上に役立てるべきであると考えました。

5月10日(木)　熊本県熊本市
熊本地震の被害状況と復興計画
混乱した現場対応に学ぶ

震度7が2回、一連の地震で震度6弱以上の地震が7回も発生し、死者は関連死を含めて85人、重傷者は768人、住宅被害13万5719件と大災害となりました。避難所運営は混迷し、避難所不足や、頻繁な余震の恐怖に多くの避難者が車中・テント泊を始める事態になりました。

復興に向け、罹災証明の受付と被災家屋調査が喫緊の課題となり、他市の応援を受けつつ、福祉部門と税務部門が連携し対応。また「復興部」を設置し、生活再建支援や住宅再建支援等に当たりました。その他、避難所体制検討、住まいと福祉、熊本城復旧復元などプロジェクトチームによる対応を進めていました。

本市でも想定される大地震に備え、震災時及び復興のための問題点抽出の参考にすべき点が多くありました。

福祉厚生委員会

（◎河内　伸一、○野々川嘉則、西尾　貞臣、船引　嘉明、佐藤　大輔、舟橋　秀和、橋本　哲也、船橋　厚）

5月15日(火)　東京都墨田区
すみだ子育てアプリ
切れ目のないサービス提供

墨田区では、地域社会の希薄化、女性の社会進出により、孤立、不安、産後うつ、乳幼児虐待などの予防、解消を図る目的から、育児情報や母親のメンタルヘルスに関する情報を積極的・効率的に発信するため、スマートフォン用アプリを作成し、妊娠から子育てまで切れ目のない情報を平成27年3月から届けています。

その機能は、区からのお知らせときずなメール、子育てに関するイベント情報、お出かけマップ、保育サービスに関するQ&A、予防接種情報等で、予算は、平成26年度開発費や宣伝費で900万円余、保守更新費は、都が2分の1を負担しています。

工夫・苦心した点は、気づきやすい自動画面表示、利便性を上げる予防接種情報の一元化、イベント情報の更新等です。周知方法は、親子健康手帳交付時・保健相談時・各関係窓口・子育て支援冊子への掲載などであり、課題は、利用者の満足度を上げ、利用者数を増やすことや防災メールに対応していないことなどでありました。

5月16日(水)　千葉県浦安市
浦安市少年消防団の活動
将来の地域防災担い手育成

浦安市は、子ども達の防災教育に関心を持ち、少年消防団の発足を希望していたところ、平成23年3月11日発生の東日本大震災を契機に翌平成24年4月に発足しました。

団員の対象は、小学5年生・6年生で、2年間を期間としており、活動の指導は、消防団員及び消防職員が行っています。

予算は、平成30年度で393万9000円で内容は、活動服、保険、研修、食糧、卒団アルバム、資機材、その他となっています。

主な活動は、入・卒団式、規律訓練、救命講習、他市との合同訓練、宿泊訓練（6年生対象）、消防出初式、防火・防災学習、帰宅困難者訓練、避難所体験などです。技能向上のための訓練・研修で、少年消防団員として、日常生活での防災・災害意識の醸成につなげています。

卒団生が成人となり、大人の消防団員として入団してもらえることも期待したいとのことでした。

文教建設委員会

（◎谷田貝将典、○木村　哲也、稲垣美佐代、小沢　国大、稲垣　守、鈴木　英治、小島　倫明、加藤　晶子）

5月17日(木)　東京都足立区
ギャラクシティ(こども未来創造館)
よく遊びよく学ぶ―こどもの居場所

ギャラクシティは、平成6年、都営住宅跡地に建設され、同25年にリニューアルされた、こども未来創造館・文化ホール・プラネタリウムを含む体験ドーム・防災センター等からなる複合施設です。土日・休日は5000～8000人、平日でも学校の振替休日、校外活動等で利用があり、年間では150万人の来館者がある大変賑わいのある施設で、プラネタリウムや材料費を伴う体験は費用がかかりますが、入館は無料です。

一時預かり所も充実し、訪問時も多くの親子が施設を利用していました。ボルダリングは、係員を配置し、利用者の安全がはかられています。

課題としては、区外から多くの方が来館し、混雑して利用しづらいことがあげられました。

本市で計画されている（仮称）こども未来館基本構想の参考の一つとなったと言われる施設を見る事で、本市での館のあり方を議論していくための良い情報を得たと思われます。

5月18日(金)　神奈川県鎌倉市
鎌倉歴史文化交流館
文化クラスターの中心施設を目指す

鎌倉歴史文化交流館は、元は世界的に高名な設計士が代表を務める建築事務所により建設された個人宅でしたが、平成25年、当時の所有者である文化財団から「武家の古都・鎌倉」の遺産価値を補完するガイダンス施設として鎌倉市へ譲渡されました。しかし、政府が世界文化遺産登録への推薦を取り下げ、紆余曲折を経て平成29年に改修が完了しました。

鎌倉が注目された時代をコンセプトにゾーン分けし、ガラスを多用した太陽光が多く入る建物構造であるため、資料展示は紙物を極力避けて石や陶器等を中心としていました。

今後の課題として、周辺住民の理解を得ての日曜・祝日開館、イベント展示等による他の博物館や資料館との差別化等があげられました。

本市においても、（仮称）史跡センターのコンセプトを設定することにより、発掘で出てきた瓦や石が魅力ある展示物になる可能性を見出すことができました。